

令和3年度第2回北海道立函館美術館協議会会議録

- 1 日 時 令和4年2月16日(水) 10:00～11:30
- 2 ホスト会場 北海道立函館美術館 講堂(オンライン開催)
- 3 出席委員 仲井会長、木村副会長、石岡委員、今村委員、川島委員、小宮委員、武井委員、梨木委員、三浦委員
(欠席委員：佐藤委員、川村委員)
- 4 傍聴者 報道関係者1名(北海道通信社)
- 5 議 事

(1) 報告事項

令和3年度事業実施状況について

事務局：資料1「令和3年度 事業実施状況書(令和4年1月31日現在)」に基づき説明。

委員：事業実施状況の中で、函館美術館の所蔵品が他の地方館に比べて、図抜けて多いという話があった。興味関心の話で申し訳ないが、どのくらい多いのか。

事務局：大体の数字で当館の所蔵品が約2千とすると、他の地方館は千に満たず、当館の所蔵品は2倍以上となっており、地方館の中で最も多くなっている。

委員：国松登、金子鷗亭、田辺三重松など、地元の素晴らしい作家がたくさんいるということが所蔵作品数に繋がっているのではないかと思う。私も商工会議所が実施した函館検定のために勉強して、それを改めて実感した。先ほど、コロナ禍で所蔵品の活用が進んでいないという話があったが、これは仕方がないので、今後、所蔵品の活用を進めていただきたい。

デジタルミュージアムのアーカイブ的な発信を考えられた方が良い。函館美術館のホームページを見て、データベースの中で、作品がサムネイルの小さな写真で表示されるが、できたら、もっと大きくできないか。せっかくカラーで載せているので、拡大して載せることはできないものかと思った。昨年、美術館のWebサイトのリニューアルを実施されたとのことだが、データベースのリニューアルも実施することがあるのかもしれないので、そういった時に掲載する写真の拡大を御検討いただければと思う。

会長：御意見・御要望ということで承る。

(2) 協議事項

ア 令和3年度道立美術館評価(案)について

事務局：資料2「令和3年度道立美術館評価(案)」に基づき説明。

副会長：1点目は、今回の評価案を拝見して、重要業績評価指標、KPIに基づいて、評価されているのがよく分かった。KPIだと考えるのであれば、今回、コロナ禍という外的要因がある中、このような指標値、実績値、達成率を算出されているが、外的要因の場合、特にKPI評価の場合は、例えば、前年

度が同じようなコロナ禍だった訳だから、数字自体も前年度と比較するような指標値の変更をするのが特徴になっている。今回は評価が低めになっている。これは自己評価という説明があったが、前年度と今年度の外的要因が同様ということで考えると、もう少し違った評価も有り得るのではないかと思った。これは感想であり、変更してほしいという話ではないので、そのように受け取ってほしい。

2点目は、(美術館評価調書の) その4 (基本的運営方針D活動の基礎となる調査・研究の推進) について、特に国松登の作品に関する展覧会をなさったことに対する評価の部分であるが、函館美術館の一番重要な運営の重点に掲げている項目の4つ目に「道南の各分野の美術に関する調査・研究を行う」という部分があることに鑑みると、もっと高い評価 (BではなくA) でも良いのではないかと思った。(国松登は) 本当に素晴らしい作家だということもあるし、(国松登の) 研究成果としても非常に丁寧に扱っているし、KPI値は設定されていない項目なので、もっと定性的に実際ここに書かれているような高い評価をされている訳だから、自己評価なので、なかなか難しい部分はあると思うが、もっと良い評価でも良いのではないかというのが率直な感想である。

3点目は、(美術館評価調書の) その1 (基本的運営方針A優れた作品の収集と保管) で気になる記載がある。コレクションの充実度について、「文字と記号に関わる現代美術」のテーマについては、寄贈の可能性が低いことから…」と書かれている。購入するという事について、検討しなければならないのではないか。この辺りはどうなっているのか質問させていただきたい。

会 長：自己評価ではあるが、大変厳しい評価ではないかという感想と、コレクションの購入について、どう考えているのかという質問であるが、事務局から回答をお願いしたい。

事 務 局：作品の購入については、全道でいくらという形で毎年度予算が決まっており、必ずしも当館が希望する作品が購入される訳ではないが、収集方針に従って検討していきたい。

副 会 長：ここ(美術館評価調書その1)に(購入を検討するという事)を記入された方が良いと思う。「文字と記号に関わる現代美術」に係る作品を収集するという目標自体が(寄贈の可能性が低いとして)達成不可能だとここに書いてあるので、(購入により)早く実現することが必要だと思う。

仲 井 会 長：ここ(美術館評価調書その1)の表記について、御意見があった。検討いただくということでよろしく願います。

イ 令和4年度運営計画(案)について

事 務 局：資料3「令和4年度 運営計画書(案)(抜粋(令和4年度事業計画))」に基づき説明。

委 員：令和4年度の特別展について、非常に興味深い内容が盛り込まれていて、

楽しみな機会になるというふう感じた。全体的な感想としてお聞きいただきたいが、コロナの状況で、非常に殺伐とした社会環境になっていて、人が集まる場所に行ったり、いろいろな行動を起こしたりすることについて、批判や誹謗中傷などが以前より非常に多くなってきている。何か今までより暮らしにくい社会になってきていると感じているが、そういう中であるからこそ、美術館のようなアートに触れる場所で過ごす時間を積極的に生活の中に取り入れていくことは、これからの重要なテーマになっていくのではないかと考えている。そのような観点から、アートに触れる時間を持つということをテーマにした何か催し物を企画いただければ、函館市民としても助かるのではないかと考えている。また、夏休み中などに子どもたちを対象にした事業を実施され、子どもたちに喜んでもらえるようなこともしていただければと思う。

会長：貴重な御意見であり、是非実現していただければと思う。

副会長：新年度も楽しみな展覧会ばかりであるが、奈良原一高の特別展について、トラピスト修道院に関わる作品の展示ということであるが、私は北斗市の観光基本計画にずっと携わっており、その中で重点的な場所として、このトラピスト修道院が挙がっている。既に連携を取られているのかもしれないが、是非、北斗市にも積極的に情報提供いただいて、連携を図っていただき、その結果、入場者の増、そして、興味関心が高まるように取り組んでいただくと、市民にとって、一層興味深い展覧会になるのではないかと考えた。

それと関連して、西野（鷹志）氏の講演会もあると伺ったが、コロナ禍の状況が続く可能性があるということが前提になるが、ライブ配信をして、それをアーカイブ化してはどうか。講演される方の貴重な御発言だと思うので、コストを掛けず、注目度アップに繋がるし、文化の共有財産として、市民がそれに接する機会を提供するという観点から、ライブ配信を是非検討されると良いと思った。

また、コロナ禍になる前の話だが、収蔵品の展覧会の時に私のところにいた学生がデジタル技術を使ったサポートをさせていただいたことがあり、彼はそれをきっかけに現在チームラボというデジタルアートの展覧会を盛んにやっているところがあるが、そこに入社して、大活躍している。そういうことに繋がる機会にもなるし、是非デジタル配信を含めて検討されると良いと思った。

会長：木村副会長は、大学で専門でもあるので、人脈などをフルに使って、取組を進めていただければと思う。

委員：昨年国松登展の観覧者数だが、やはり道南ゆかりの作家ということで、伸び悩んだ数字だと思う。内訳を見ると、有料の観覧者よりも無料の招待客が倍近くあるということで、戦略的なところで、招待券を配って、一定の人に見てもらいたいというのがあると思う。

来年度計画の金子鷗亭の展覧会でも、このままでは同じような状況になる

と思われる。金子鷗亭の作品は良い作品ではあるが、常設展でいつも見ているから、よく見る作家だから（特別展は見なくても）いいと思ってしまう人が多い。興味があるからもっとまとめて作品を見たいという人もいると思うが、圧倒的に前者の方が多いと思う。そういうところで、やはり（広報して）広めるように、招待よりも（情報を）広めることを先にやるのかどうか、そういったところも期待する。

事務局：できるだけ多くの方に親しんでいただきたいということで、金子鷗亭ももちろんそうだが、もう一人、中野北溟の書ということでもクローズアップして紹介していきたいと思っている。中野北溟の書については、アートギャラリー北海道の連携館である羽幌町中央公民館に中野北溟が羽幌町出身ということで「書の北溟記念室」を設置しているが、その作品であるとか、作家本人が持っている書なども展示する。中には金子鷗亭とは全く違う現代美術に近いような表現の作品もある。例えば、皆さんのイメージする書というと、額に入っているものや軸に掛かっているものが多いと思うが、そういったものではなく、クリップで作品を留めてぶら下げるといった現代美術の書に近いような表現もあり、そういったものも含めて従来の書の展覧会とは一味違う形で展示をできないかということを検討しているところである。是非楽しみにしていただきたいと思う。

委員：そういったものが広く伝わるようにしていただきたい。

会長：今、広報の関係の御意見が出たので、お願いしたい。

(3) その他

ア 美術館評価の見直しに係る進捗状況について

事務局：資料4「美術館評価の見直しに係る進捗状況について」に基づき説明。

会長：評価の見直しについては、時間を掛けて、じっくり検討するという印象を受けた。それだけ難しいことだというのが分かる。今後、改正作業をしながら、見直しを進めていくということである。

イ その他（全体を通しての意見等）

委員：今、話題になっていた作品のデジタル化や作品をオンライン上で楽しめるような仕組みができれば、函館以外の遠方にある小学校や中学校でも活用できると思い、有り難いと感じていた。

会長：今、学校現場で児童生徒一人一台の端末が配備されているので、是非そういったものを活用しながら進めていければと思う。

委員：令和3年度の事業がすごく考えられていて、素晴らしい内容だったが、かなりの数が中止になったので、すごく残念だと思っていた。令和4年度に計画されている事業も素晴らしいものが予定されていて、今度は中止にならずに行われることを期待する。美術館に来て、作品を直に見るとというのが昔からの楽しみ方だったが、コロナ禍になってから、美術館と言えども、HPな

ど、情報発信の仕方をいろいろと変えていかなければならない時代になってきたと思った。

委員：令和3年度に関しては、全般的に事務局の方の苦労が大変だったと、極めてイレギュラーなことばかりなので、可能な限り事業を実施したということを示すのが精一杯だったのかなと思うし、次年度に関しては、先のことは分からないが、コロナ禍の収束を願って、通常に戻った際にはということ、いろいろな事業を前向きに検討するしかないと思う。皆さんの意見を聞いていて、なるほどと思うことばかりだったが、逆に情報発信のチャンスと捉えることもできる。市民としてこのギスギスした暮らしにくい世の中で、逆に心が和むような、心にゆとりを持てるような、心が温かくなるようなものということで、改めて美術館の役割を果たすことができたなら、暮らしの中のプラスの面が出てくるのかなと思った。これだけコロナ禍が長くなるとは誰も思っていなかっただろうが、ここまで続くと、何か一つ新しいことにチャレンジする工夫が必要だと思った。

委員：令和4年度の展覧会も楽しみに思ったものがたくさんあるが、元々アートが好きの方は、関係のホームページなどで情報を収集して、いつどの展覧会が開催されるということを恐らく分かっていると思う。そうではない方に美術館に足を運んでもらうためには、やはりアートを見るだけではない楽しみというか、価値が必要である。それがスイーツなどであり、カフェが再開できるといいなと思ったところである。あとは良く聞くのが、すごく良い展示だったという情報を展覧会が終わってから知ることがある。普段アートに興味がないと、人気がある展覧会が終わってから評判を知って見逃してしまったということがあると思うので、あまりアートに興味のない方もいろいろな方法で、この展覧会ではこういった展示があるということの前の段階で良く分かるように広報していただけたらと思う。特に来年度開催予定の笠間日動美術館コレクション「魅惑の西洋近代絵画」では、モネやピカソなど、有名な作家の名前が多いが、特に若い女性が使っているモネやピカソのネイルシールやコスメがすごく出ているので、若い女性がそうしたネイルシールやコスメを付けて展覧会に行こうということはあるし、ネイルシール等を付けて、展覧会のチラシを持って写真を撮り、SNSに上げようとか、そういうきっかけになるので、やはりとにかく早い段階で事前に展覧会を見てもらえるような宣伝が大事なのかなと思った。